

SAJ 令和 3 競 005-2
令和 2 年 8 月 4 日

加盟団体アルペン担当者 各位

公益財団法人 全日本スキー連盟
アルペン委員長 加藤 清孝
アルペンヘッドコーチ 浦村 健太
国内担当ヘッドコーチ 佐々本 明



JOC ジュニアオリンピックカップ 2021 全日本ジュニアスキー選手権大会（アルペン競技）
開催方法変更の経緯と主旨について

平素より、SAJ 競技本部アルペン委員会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日、「JOC ジュニアオリンピックカップ 2021 全日本ジュニアスキー選手権大会」（以下、ジュニアオリンピック、とします）の開催概要を発表いたしました。これまでの開催方法から大きな変更がなされております。そこで、今回の変更に至った経緯と主旨について、下記の通り、ご説明いたします。

ジュニアオリンピックは、今後の日本の競技力向上のために重要な大会であると考えます。変更に伴い、各加盟団体におかれましては、予選方法の変更等でご迷惑をおかけすることと存じますが、主旨をご理解いただき、実施にご協力下さいますよう、何卒、お願い申し上げます。

記

【変更主旨】

1. 開催地の変更について

これまで、北海道・東北・甲信越・東海北陸の 4 ブロックにおいて 2 年ごとの持ち回り開催をお願いしてまいりましたが、全日本選手権等の SAJ 主催大会は、順次 SAJ が主体となり開催を行う方針となりました。

これに伴い、ジュニアオリンピックは 2020-21 シーズンより SAJ ディビジョン 2 国内拠点で開催することと、予てよりご案内をしてきました。しかしながら、現在、同じく主催大会である全日本選手権を開催している、阿寒湖畔スキー場（北海道・釧路市）で実施することで、SAJ の持てる資源を集中し、経費の節約及び効率的な開催が可能となると考え、変更の決定に至りました。

2. PSL 導入について

近年、パラレル種目はアルペン第 6 の種目として広く認知され、その人気は益々高くなっています。オリンピックや世界選手権においてもチームイベントとして開催され、出場枠が 16 カ国ということもあり、今後日本がスラロームと共に入賞・メダルを狙うべき種目と考えます。

今回ジュニアオリンピックに PSL を導入した背景には、このパラレル種目にユース世代から馴染んでもらうことがあります。また、PSL を構成するパネルスラロームはユース期の基本トレーニングとしても適していると考えます。さらに、目に見える形で競い合うパラレル競技は、選手のアルペンスキーに対する新たなモチベーションとなると期待されます。

3. K1 カテゴリーの実施について

2019-20 シーズンより、SAJ では K1 カテゴリーの公認レースを開催しておりません。その中で、ジュニアオリンピックで K1 種目を実施する理由は、2030 年及びそれ以降のオリンピックで日本がメダル獲得を目指す際、この年齢からの選手強化は必須であり、同年代のトップ選手が全国から集い選手権をかけ競い合う場を SAJ が設けることは、そのために有用であるとの考えからです。

4. 予選方式について

この度、加盟団体にごその方法をお任せしていた選考会の方式を、予選会を一レース設定し、その成績上位者より選考していただく方法に改めました。その理由は、ユース期より「大一番での一発勝負」の経験を積みかさね、いわゆる「勝負強さ」を作ることが、将来世界で戦うためには必要であると考えたからです。また、予選レースが複数あることで、結果として多くのレースを追うことになることを避ける意図もあります。

これまで複数レースを設定されていた加盟団体におかれましては、当然ながら理由があつてのこととは存じますが、主旨をご理解いただき、選考方法の変更にご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

以上